

盛り上がる職場の総決起体制 職場を訪ねて その1

—不当処分許すな！ 5.25三里塚総決起にむけ—

蘇我

車を降りた時には、かなり激しい雨であった。大きなカメラバッグをかついできた筆者を見て「オヤ、今日は何ですか？」と構内・誘導詰所の年輩組合員の方が出てこられた。不当処分、三里塚決起等へむけての職場の闘いのようを取材にきた旨伝え、詰所に案内していただいた。黄色い作業帽・二色の手旗・カントラなどが整然と並ぶ詰所のロッカー・机・壁・窓に「不当処分策動粉碎」「三里塚総決起」等々のステッカー、それに「成田の平和を守る市民の会」から送られた支援の旗布などがいて、ねいに貼られている。ここは京葉コンビナートを全掌中におき、同時に成田・佐倉の鹿島ルートと並ぶ、ジェット燃料貨車輸送京葉ルートの拠点である。八〇春闘では五年ぶりのスト突入、全員籠城で任務を貫徹し、京葉ルートの二本も実力で完全にとめた。

この詰所では年輩者と十代、二十代前半の若い組合員仲間が一体となって仕事をしている。「ここがネ、若いものたまり場ですよ」「ここのとこ一年、若いもんがえらくはり切って、ようやくとりましますよ。この大き



『不当処分策動粉碎！ 5.25三里塚へ！』を訴える蘇我のジャンボステッカー。(走行中のDLが京葉臨海貨物線。その手前が内房線。)

なピラ（三里塚ジャンボステッカー）も、あたしが選挙の動員で出かけて帰ってきたら、バナーと貼ってあった。十六日ごろかネ。」「ここ一年間——と言われた年輩組合員Aさんの言葉には実感がこもっていた。動労千葉九番目の支部として結成にまで

至る支部全員のねばりと闘い、連日の「本部」破壊オルグとの職場・家庭での対決、もちろん結成後もそれは続いた。そして遂に勝ちぬいた。「この一年の苦闘」あつてはじめて、新生蘇我支部はみちがえるような強さを育ててきた。八〇春闘スト貫徹はそれを示した。

今、職場は「不当処分策動」への怒りでもえ立っている。十二日の職場集会へは組合員総数五十二名のうち四十名もがつめかけたという。

入れ換えの終わった青年部役員のB君が黄色い雨ガッパのまま詰所に入ってきた。「取材」と聞いて照れながらもポツリポツリ青年部を中心とした総行動の前進ぶりを紹介してくれた。

十六日職場ステッカー闘争、二十日田中本部青年部長をよんで学習会、等々。小人数ながらも頑張っている。五月二十一日現在、必死のオルグで青年部総数十三名中八名の仲間が「五・二五三里塚集会参加」を約束してくれたいという。「勤務の都合でどうしても参加できない仲間をのぞくと、あと二名です。全員参加めざして更にオルグに熱を入りたい」。役員経験はほぼ一年間、二十一歳の若さがはちきれんばかりだ。一応の取材を終るころ、「サア、また入換やつてきますから失礼！」と手旗をかかえて黄色い雨ガッパで小雨の中へ飛び出していった。

組織破壊攻撃を粉碎せよ！ 組合員・家族の強固な団結で

津田沼
5.25 不当処分 三里塚
5.25 三里塚 総決起

クラゲラの裏切り分子を追いつめ、津田沼特別班解体・三里塚総決起で、不当処分策動粉碎へバク進中！（連日、総決起の展開されている2階乗務員詰所。——津田沼。）

徹
5.25 三里塚 総決起

お勤め
五万人体制
三里塚へ

日刊 動労千葉

80.5.22 NO.435

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
電話 二三八一九・公衆電話 三二七二〇七